

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

全国学力・学習状況調査は、小学校第6学年と中学校第3学年を対象として平成19年度から実施されています。調査が開始後、網走市では、全ての学校がワンチームとなり、市の教育目標である「明日をひらく子どもの育成」のため、共通・一貫した取り組みを進めてきたことで着実に子供たちの学力向上の成果に結び付いて来ました。

網走市教育委員会では、「網走市学校教育推進プラン」のもと、網走市の将来を担う子どもたちに、これからの時代に求められる資質・能力の育成を目指した教育活動を目指し、網走市学力向上推進委員会とともに分析を行った市内小・中学校全体の調査結果について、今後の方策とともに公表いたします。

1. 調査の概要

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、このような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 実施日 令和6年4月18日（木）

3. 調査の対象・児童生徒数

- 小学校第6学年 8校（網走小、中央小、西小、南小、潮見小、東小、白鳥台小、西が丘小）
実施人数 215名 ※呼人小は、調査対象学年在籍児童なし
- 中学校第3学年 6校（第一中、第二中、第三中、第四中、第五中、呼人中）
実施人数 国語228名 / 数学229名

4. 調査の内容

- ① 教科に関する調査（小学校：国語、算数／ 中学校：国語、数学）
 - ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関する内容※上記を一体的に問う。
- ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査※児童生徒質問紙および学校質問紙は、文部科学省 CBT システムを活用したオンライン方式で実施

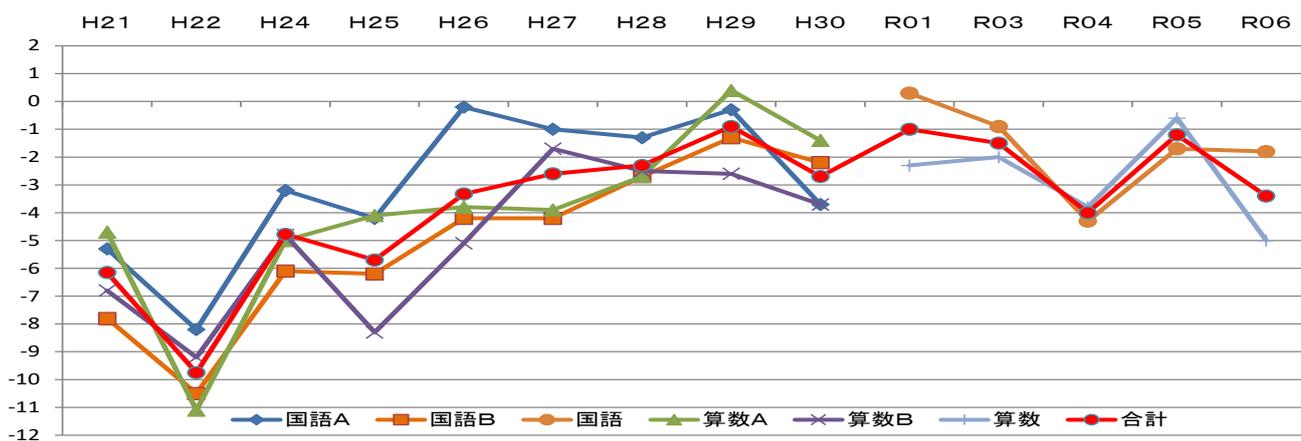
2. 結果の概要

(1) 平均正答率・平均正答数

教科		小学校		中学校	
		国語	算数	国語	数学
問題数		14 問	16 問	15 問	16 問
平均 正答率 (ポイント)	網走市	65.9	58.4	57.7	48.7
	北海道	66.8	60.6	57.6	51.0
	全国	67.7	63.4	58.1	52.5
北海道との差		-0.9	-2.2	+0.1	-2.3
全国との差		-1.8	-5.0	-0.4	-3.8
平均 正答数 (問)	網走市	9.2	9.3	8.7	7.8
	北海道	9.3	9.7	8.6	8.2
	全国	9.5	10.1	8.7	8.4
北海道との差(問)		-0.1	-0.4	+0.1	-0.4
全国との差(問)		-0.3	-0.8	±0	-0.6

※平均正答率～各教科それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率

(2) 網走市《小学校》の平均正答率の推移



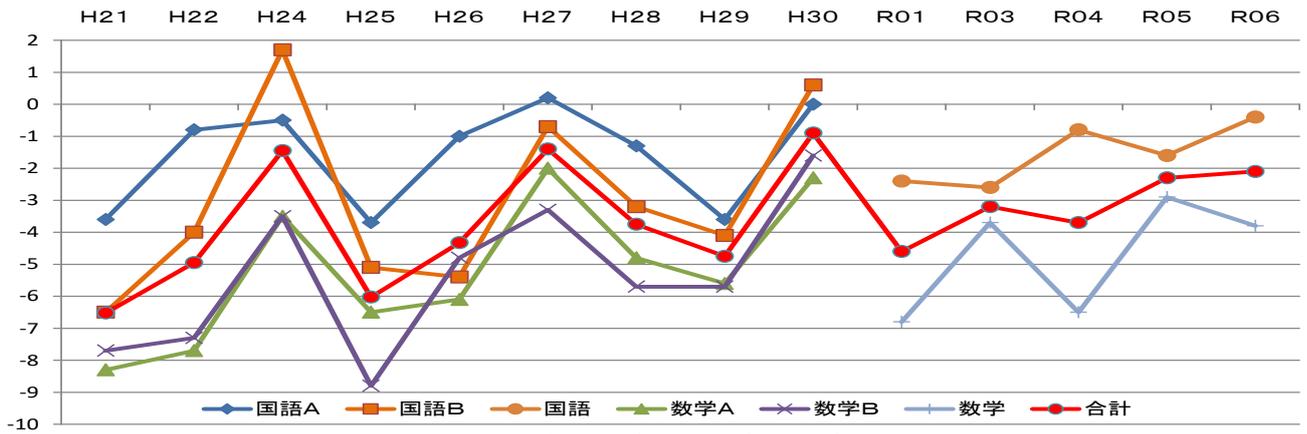
		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R03	R04	R05	R06					
国語	A	64.6	75.1	72.1	78.4	58.5	72.7	69.0	71.6	74.5	67.0	64.1	63.8	61.3	65.5	65.9					
		-5.3	-8.2		-3.2	-4.2	-0.2	-1.0	-1.3	-0.3	-3.7										
	B	42.7	67.3	31.3	49.5	43.2	51.3	61.2	55.1	56.2	52.5						0.3	-0.9	-4.3	-1.7	-1.8
		-7.8	-10.5		-6.1	-6.2	-4.2	-4.2	-2.7	-1.3	-2.2										
算数	A	74	63.1	77.6	68.3	73.1	74.3	71.3	74.9	79.0	62.2	64.3	68.2	59.4	61.9	58.4					
		-4.7	-11.1		-5	-4.1	-3.8	-3.9	-2.7	0.4	-1.3										
	B	48.1	40.1	39.1	54.1	50.1	53.3	43.3	44.7	43.3	47.8						-2.3	-2.0	-3.8	-0.6	-5.0
		-6.8	-9.2		-4.8	-8.3	-5.1	-1.7	-2.5	-2.6	-3.7										

※調査問題は毎年異なり、平均正答率を年度間で比較できないため、全国平均を100とした時の網走市の正答率で比較

※国語と算数は、平成31年度(令和元年度)から「知識」と「活用」を一体的に問う問題形式で実施

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、全国調査は実施されていない。

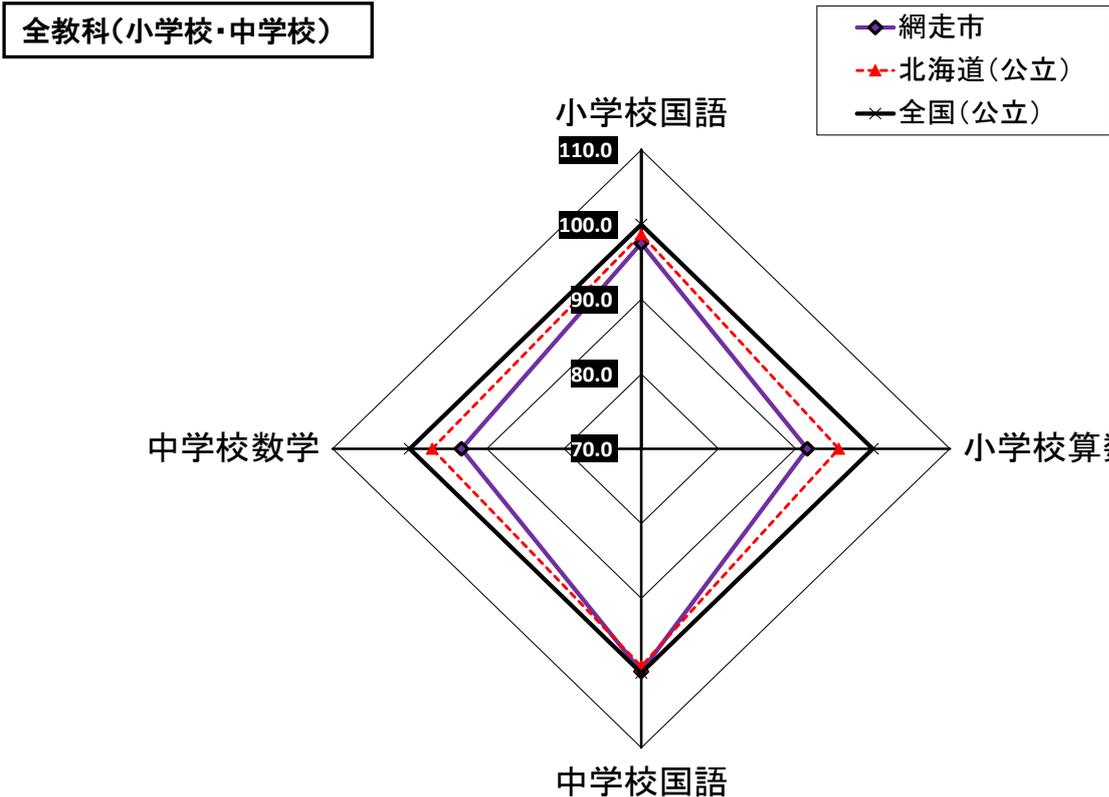
(4) 網走市《中学校》の平均正答率の推移



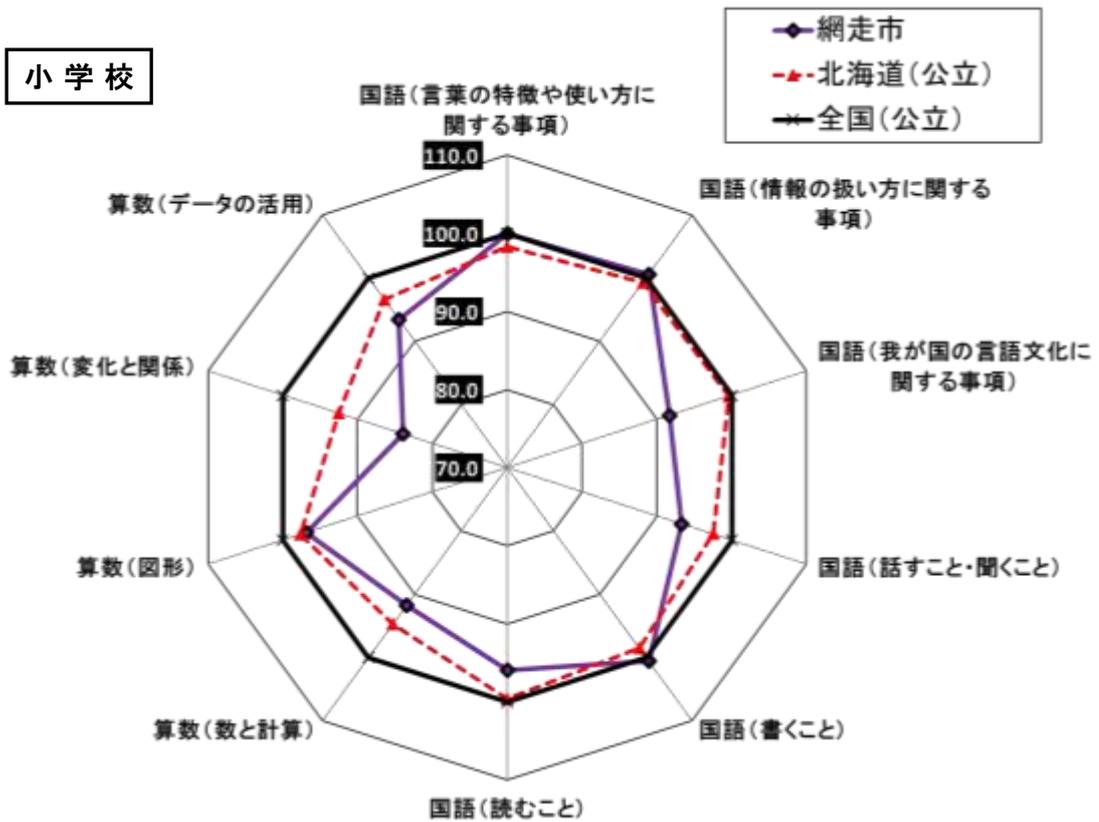
		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R03	R04	R05	R06
国語	A	73.4	74.2	78.9	74.6	72.7	78.4	76.0	74.3	73.8	76.1	70.4	62.0	68.2	68.1	57.7
		-3.6	-0.8		-0.5	-3.7	-1.0	0.2	-1.3	-3.6	0.0					
	B	68	61.3	63.5	65.0	62.3	45.6	65.1	63.3	68.1	61.8					
		-6.5	-4.0		1.7	-5.1	-5.4	-0.7	-3.2	-4.1	0.6					
数学	A	54.4	56.9	54.5	58.6	57.2	61.3	62.4	57.4	59.0	63.8	53.0	53.5	44.9	48.1	48.7
		-8.3	-7.7		-3.5	-6.5	-6.1	-2.0	-4.8	-5.6	-2.3					
	B	49.2	36	47.5	45.8	32.7	55	38.3	38.4	42.4	45.2					
		-7.7	-7.3		-3.5	-8.8	-4.8	-3.3	-5.7	-5.7	-1.7					

(5) 各教科領域別の状況 (レーダーチャート)

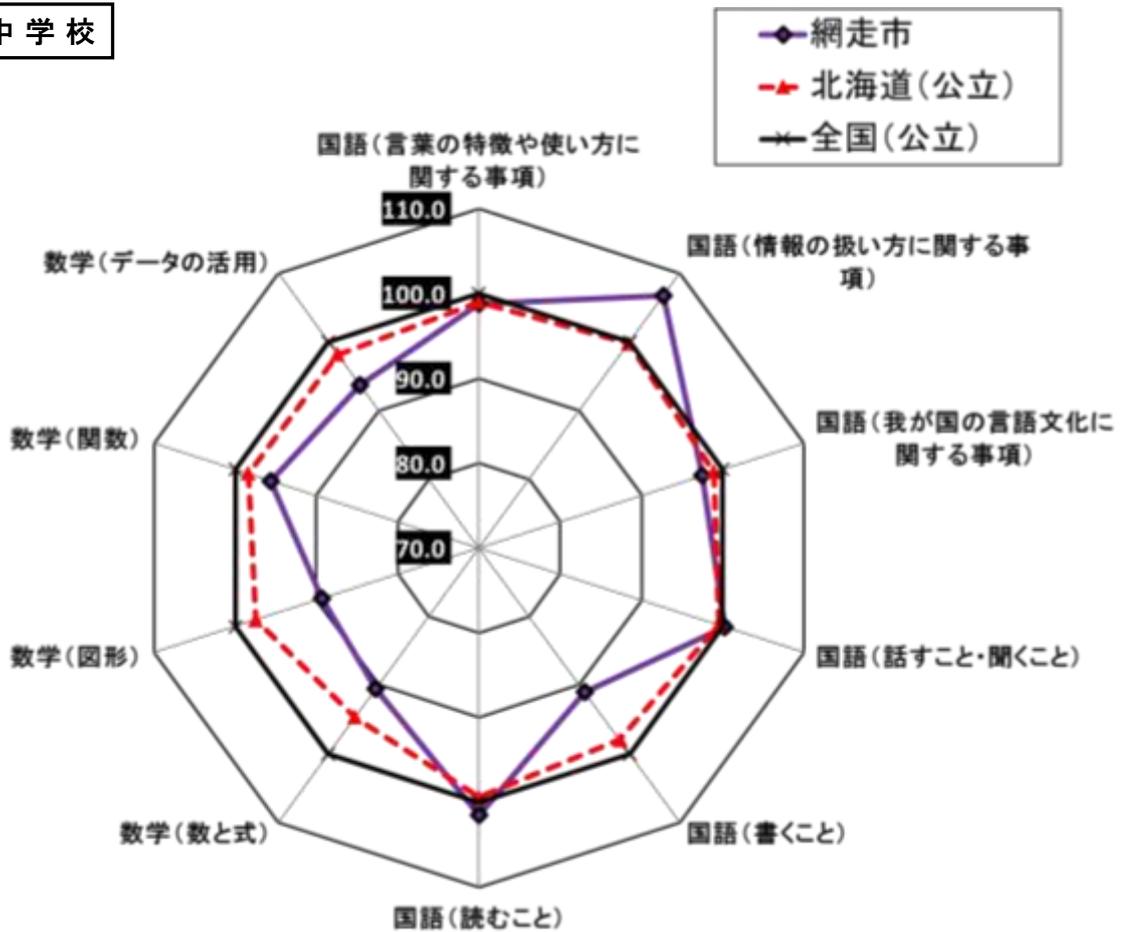
各教科領域別の状況



小学校



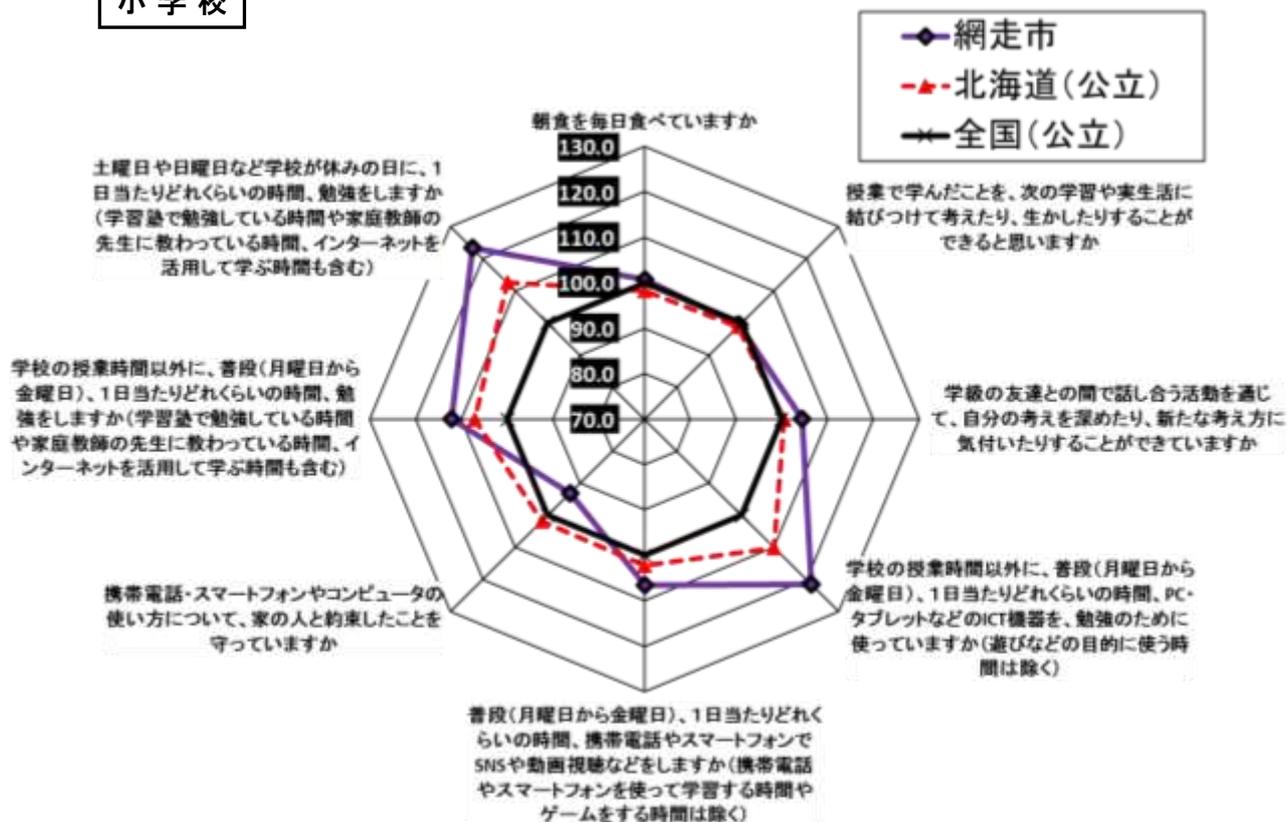
中学校



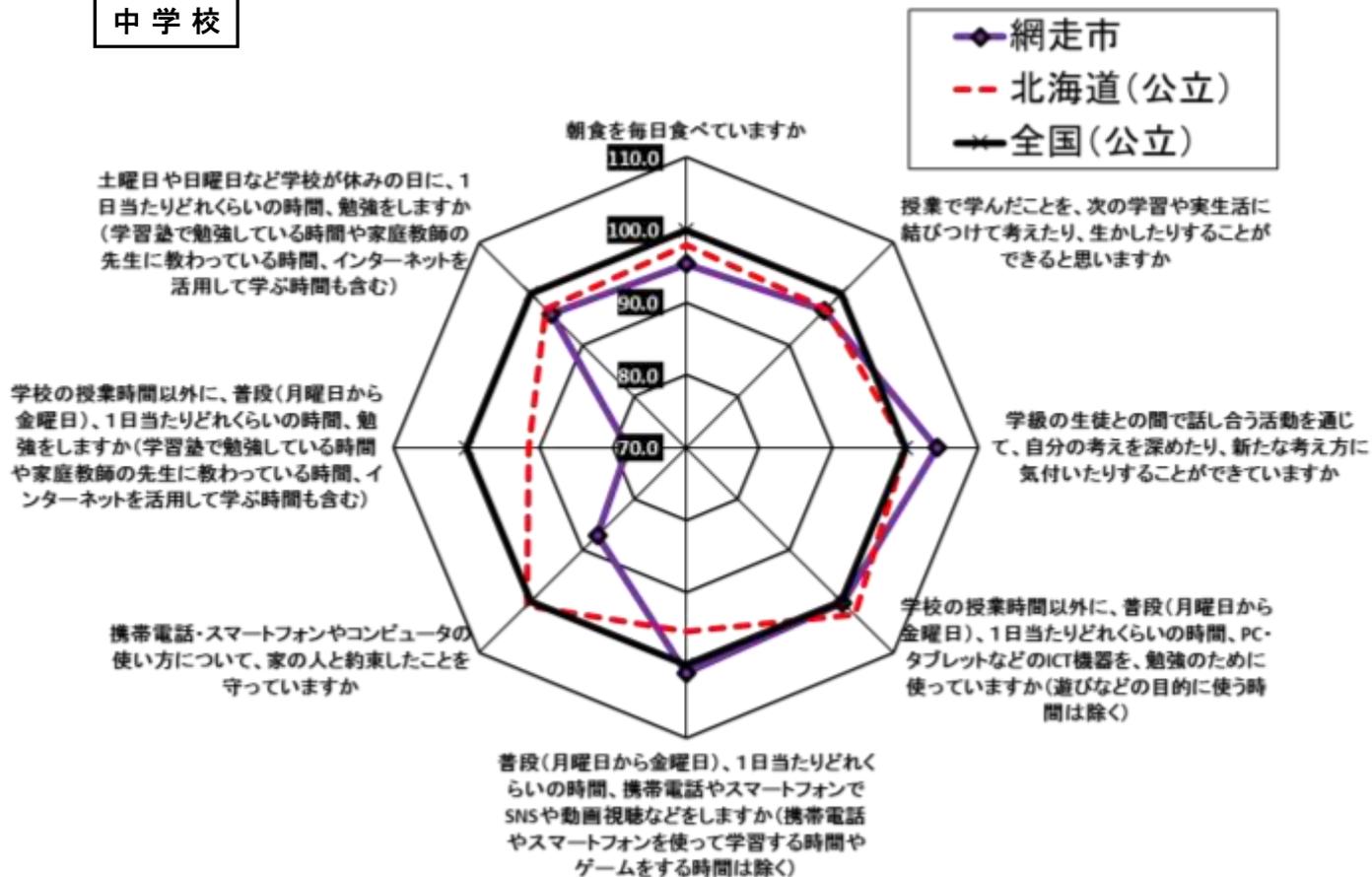
(6) 児童生徒質問紙調査の状況 (レーダーチャート)

《 学習習慣 ・ 生活習慣 》

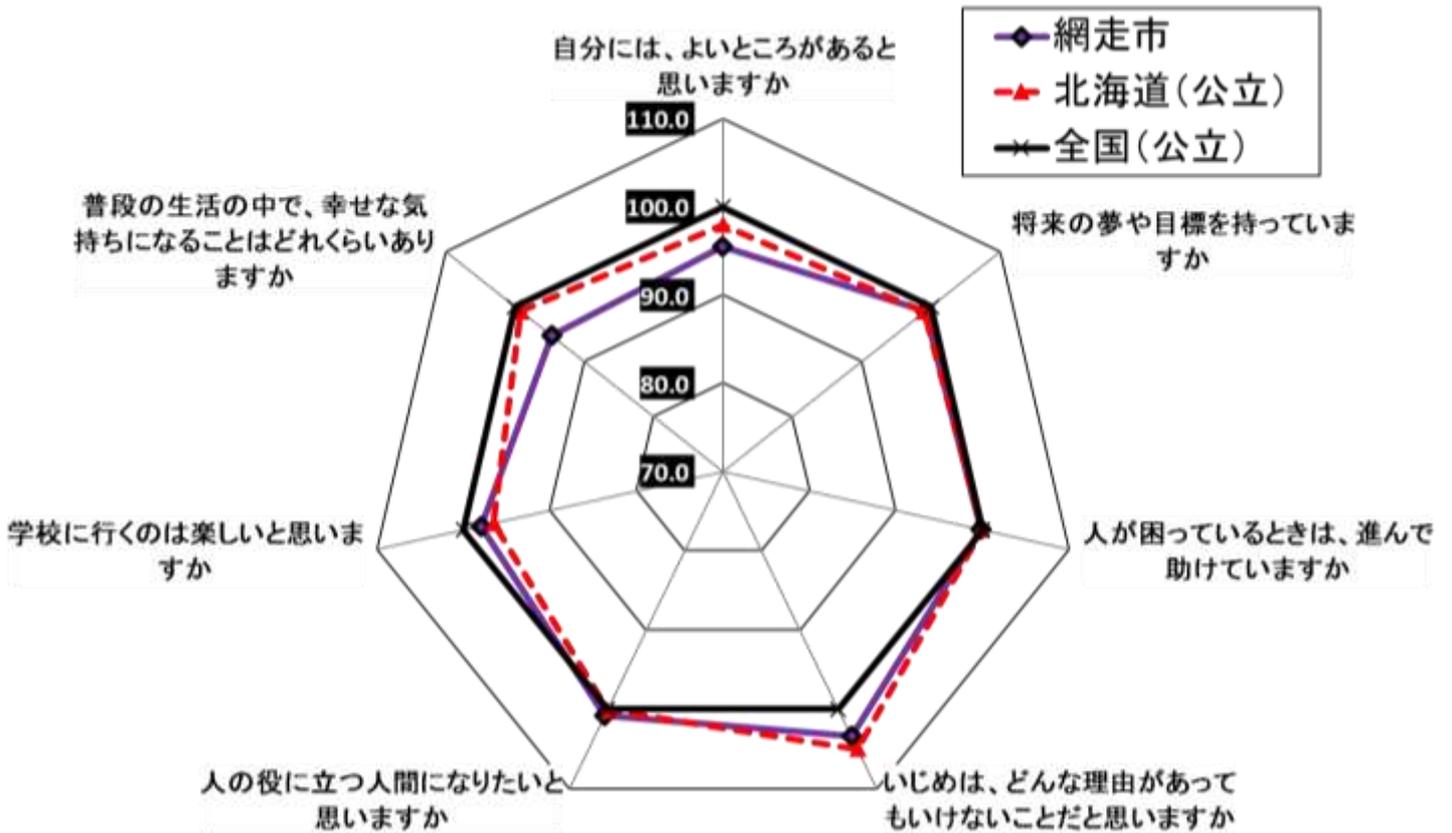
小学校



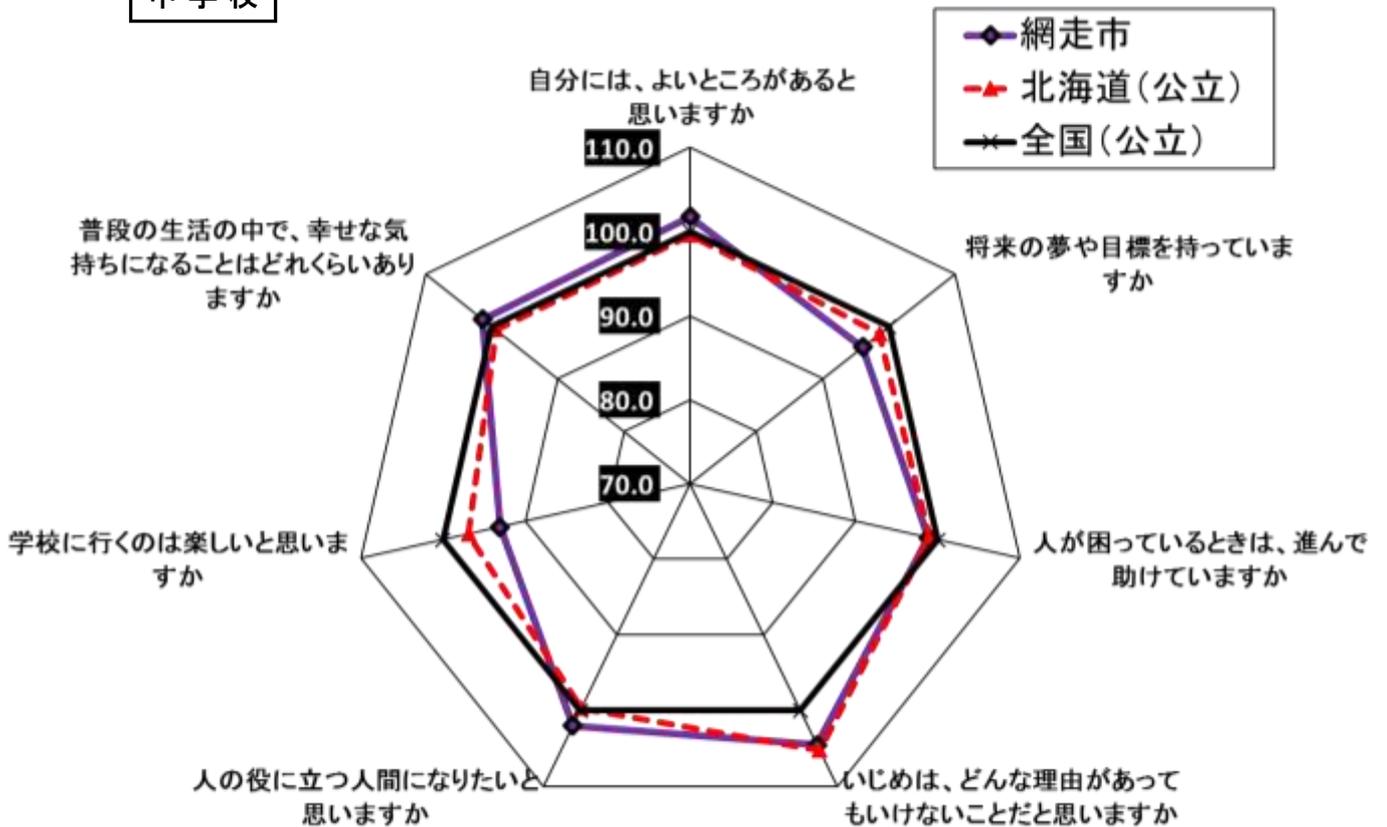
中学校



小学校



中学校



○小学校 算数

対象児童数	網走市	北海道（公立）	全国（公立）
	215	34,531	947,579

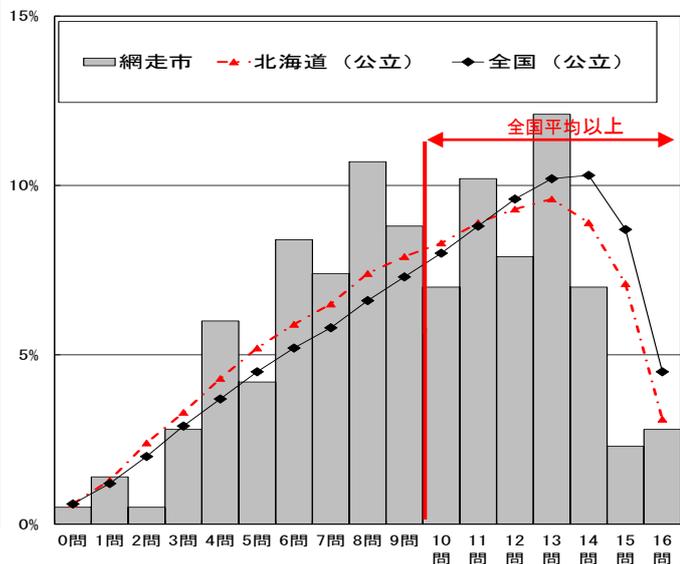
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			網走市	北海道（公立）	全国（公立）
全体		16	58.4	60.6	63.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	60.6	62.5	66.0
	B 図形	4	64.2	64.7	66.3
	C 測定	0			
	C 変化と関係	3	43.4	47.8	51.7
	D データの活用	4	57.7	59.7	61.8
評価の観点	知識・技能	9	67.3	69.6	72.8
	思考・判断・表現	7	47.0	49.0	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	70.5	72.9	75.3
	短答式	7	57.1	58.8	62.0
	記述式	4	45.6	48.3	51.0

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点	問題形式	正答率(%)			無解答率(%)			
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用			網走市	全国（公立）	全国（公立）	貴教育委員会	全国（公立）		
正答率が高かった問題（上位3問）																
1 (2)	はじめに持っていた折り紙の枚数を口枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ	数量の関係を、口を用いた式に表すことができるかどうかをみる	3 (7)	7 (7)				○	○	86.5	88.5	-2.0	0.5	0.3		
3 (1)	作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ	直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる	4 (2)	7 (7)	7 (9)			○	○	83.3	85.5	-2.2	0.5	0.6		
5 (1)	円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く	円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる				5 (1)	7 (7)	○	○	75.8	80.8	-5.0	3.7	1.8		
正答率が低かった問題（下位3問）																
4 (3)	家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる				5 (2)	7 (7)	4 (7)	○	○	21.4	31.0	-9.6	2.3	2.4	
3 (3)	直径2.2cmのボールがびったり入る箱の体積を求める式を書く	球の直径の長さや立方体の一面の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる	3 (1)	7 (9)	5 (4)	7 (7)		○	○	36.3	36.5	-0.2	9.3	9.8		
5 (3)	折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる				3 (1)	4 (7)	4 (1)	7 (4)	○	○	37.2	44.0	-6.8	14.9	12.6

【小学校算数の概要】

- 正答率の全国平均との差は、-5.0ポイント
- 正答率が全国平均を上回った問題はない。
- 学習指導要領の領域別（4領域から出題）では、全国を上回った領域はない。
- 問題形式別では、「選択式」「記述式」「短答式」とも全国を下回っている。
- 平均正答率が10問（全国平均）以上の割合
 全国 ~ 67.4%
 網走 ~ 58.1%

【正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:割合)】



○中学校 国語

対象生徒数	網走市	北海道（公立）	全国（公立）
	228	33,614	875,574

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
			貴教育委員会	北海道（公立）	全国（公立）	
全体		15	57.7	57.6	58.1	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	3	58.5	58.6	59.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	63.6	59.5	59.6
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	73.7	74.8	75.6
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	58.9	58.5	58.8
		B 書くこと	2	59.4	64.0	65.3
		C 読むこと	4	48.6	47.6	47.9
評価の観点	知識・技能	6	62.7	61.6	62.0	
	思考・判断・表現	9	54.4	54.9	55.4	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	62.0	60.8	61.0	
	短答式	3	61.7	61.2	61.8	
	記述式	3	41.1	44.1	45.5	

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点	問題形式	正答率(%)			無解答率(%)		
			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等				網走市	全国（公立）	全国との差	網走市	全国（公立）	
(1)	言葉の特徴や使い方に 関する事項												
(2)	情報の扱い方に 関する事項												
(3)	我が国の言語文化に 関する事項												
A	話すこと・聞くこと												
B	書くこと												
C	読むこと												

正答率が高かった問題（上位3問）

3一	物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる					1ア		○	○			78.9	81.0	-2.1	0.9	0.7
2二	本文中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	2ア						○	○			75.9	75.2	0.7	0.4	0.6
4三	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解しているかどうかをみる					1エ(イ)		○	○			73.7	74.8	-1.1	4.8	2.3

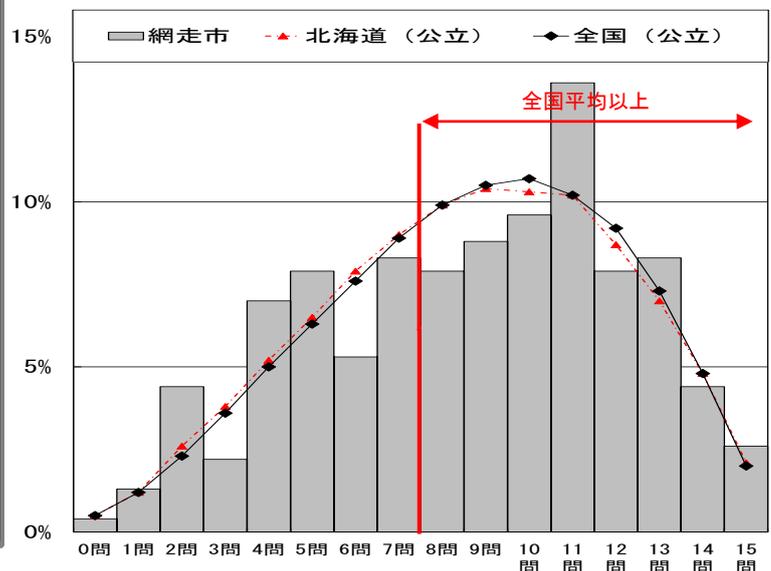
正答率が低かった問題（下位3問）

2一	本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる					2ウ		○	○			39.9	36.9	3.0	0.4	0.5
3四	表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する	表現の効果を考えながら描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる					2ウ		○	○			39.9	46.9	-7.0	22.4	15.0
2四	本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する	目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる					1ウ		○	○			40.8	42.4	-1.6	11.4	8.4

【中学校国語の概要】

- 正答率の全国平均との差は、-0.4ポイント
- 正答率が全国平均を上回った問題は15問中7問。
- 学習指導要領の領域別（6領域から出題）では、3領域で全国を上回っている。
- 問題形式別では、「選択式」で全国を上回り、「短答式」「記述式」で全国を下回っている。
- 平均正答率が9問(全国平均)以上の割合
 全国 ~ 54.7%
 網走 ~ 55.2%

【正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:割合)】



○中学校 数学

対象生徒数	網走市	北海道（公立）	全国（公立）
	229	33,598	875,952

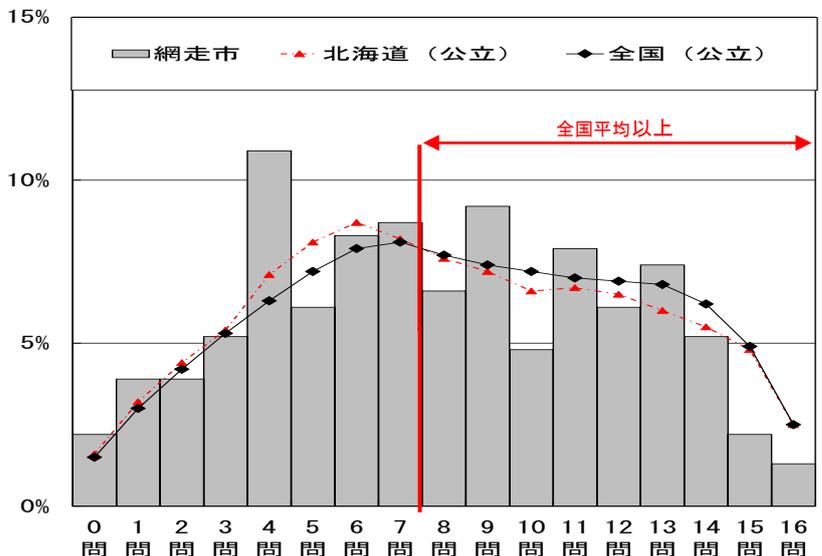
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			網走市	北海道（公立）	全国（公立）
全体		16	48.7	51.0	52.5
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	46.3	48.4	51.1
	B 図形	3	36.0	39.3	40.3
	C 関数	4	58.0	59.7	60.7
	D データの活用	4	52.0	54.5	55.5
評価の観点	知識・技能	11	59.2	61.6	63.1
	思考・判断・表現	5	25.6	27.8	29.3
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	54.6	57.1	58.5
	短答式	6	63.0	65.4	67.0
	記述式	5	25.6	27.8	29.3

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	網走市	全国（公立）	全国との差	網走市	全国（公立）	全国（公立）
正答率が高かった問題（上位3問）																		
6(1)	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる	1(1) 7(4)															
8(1)	ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ	二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる			2(1) 7(7)													
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる			2(2) 7(4)													
正答率が低かった問下位3問）																		
8(2)	18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる			2(1) 4(4)													
9(1)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、AQ=PBであることを、三角形の合同を基にして証明する	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる	2(2) 4(4)															
7(2)	車型ロボットについて「遠さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が多くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる			2(1) 4(7)													

【中学校数学の概要】

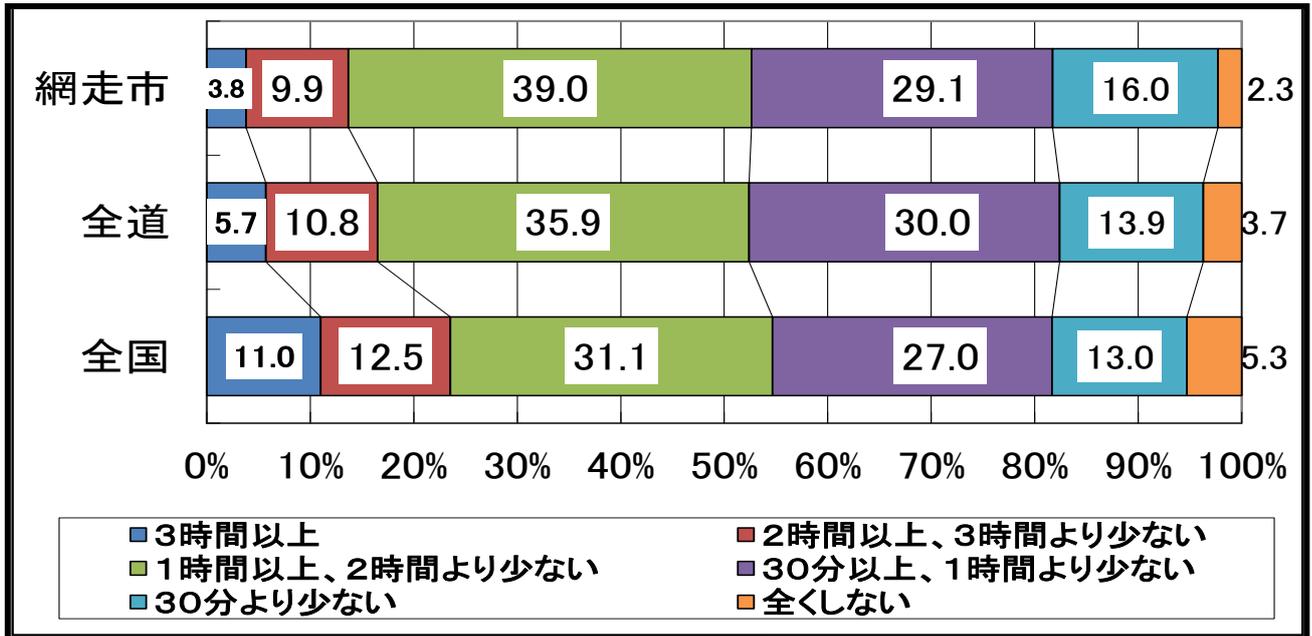
- 正答率の全国平均との差は、**-3.8ポイント**
- 正答率が全国平均を上回った問題は16問中2問
- 学習指導要領の領域別(4領域から出題)では、全領域で全国を下回っている。
- 問題形式別では、「選択式」「短答式」「記述式」ともに全国を下回っている。
- 平均正答数が8問(全国平均)以上の割合
 全国 ~ 56.6%
 網走 ~ 50.7%

【正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:割合)】

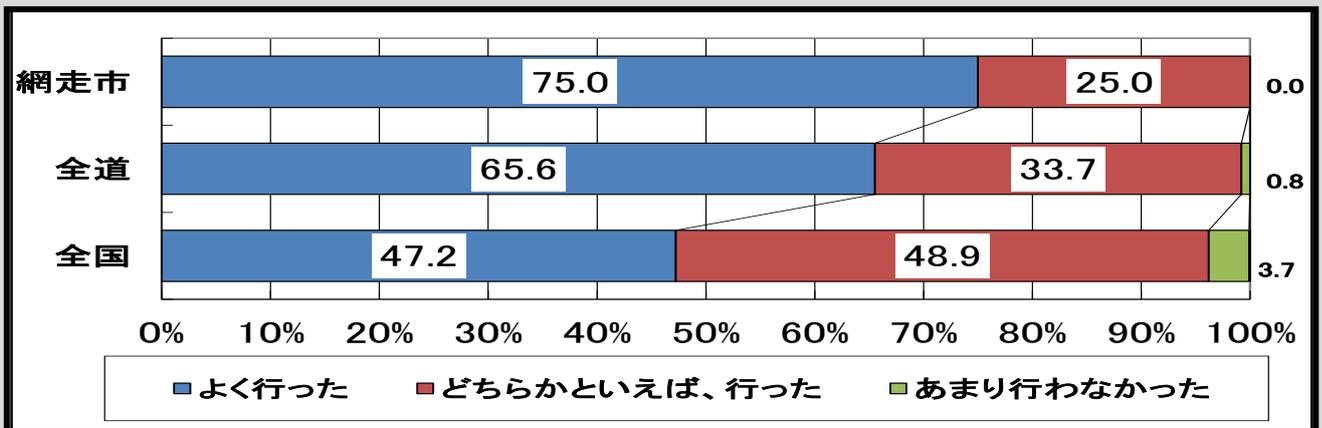


4. 児童生徒質問紙調査

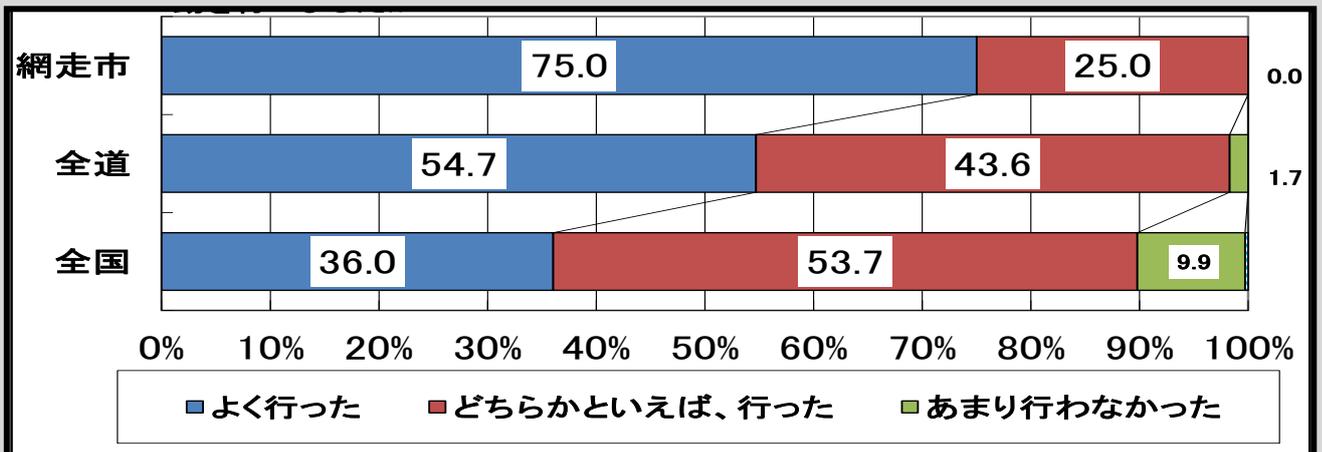
小学校児童質問紙 【授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか】



学校質問紙【児童に対して、家庭学習の取組として、学校では家庭での学習方法等の具体例を挙げながら教えましたか】



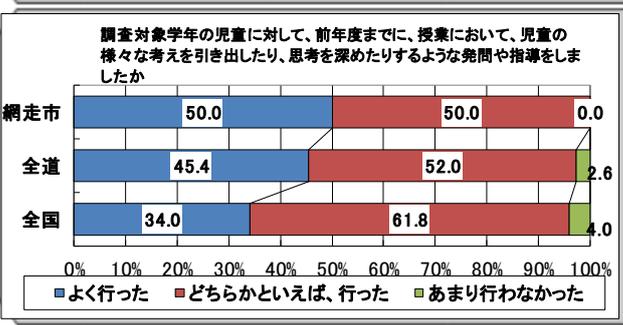
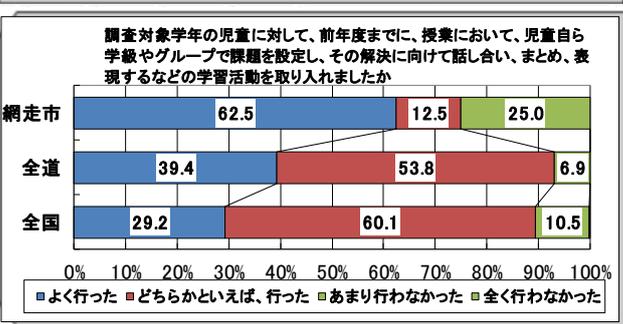
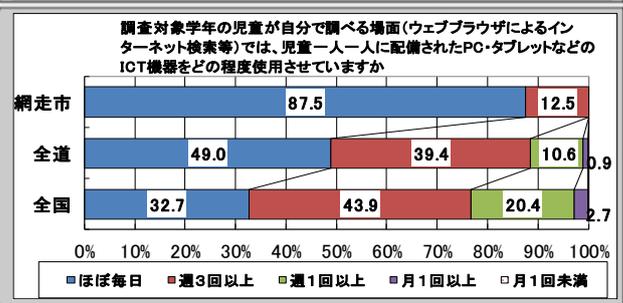
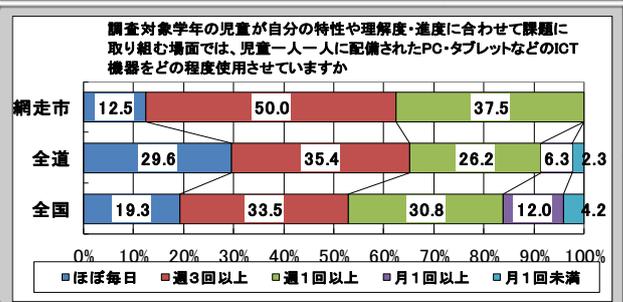
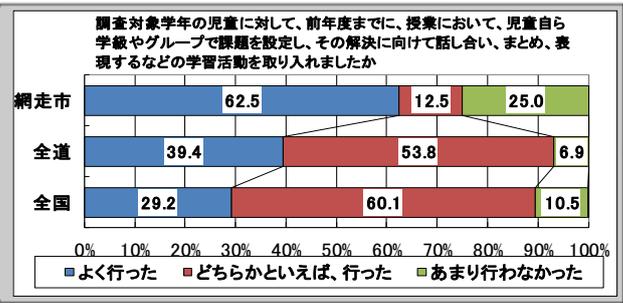
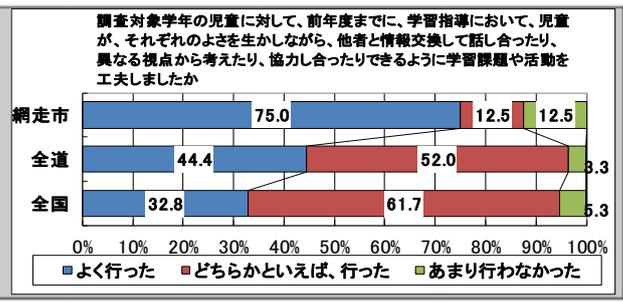
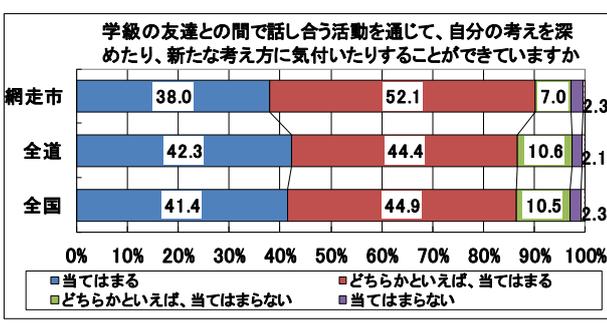
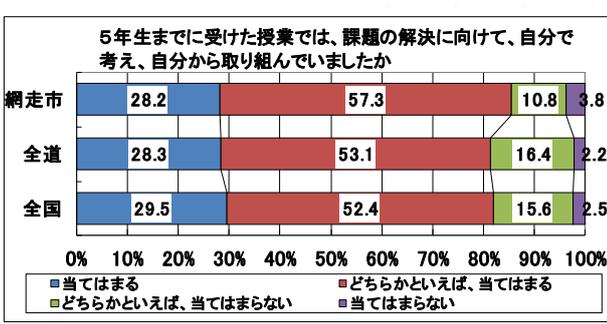
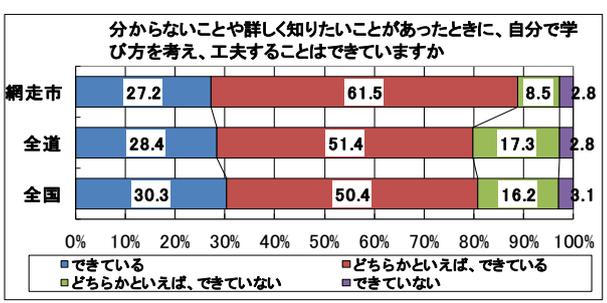
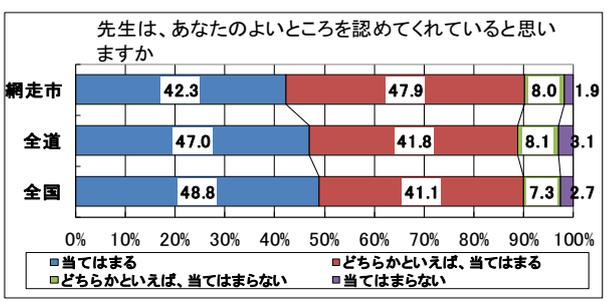
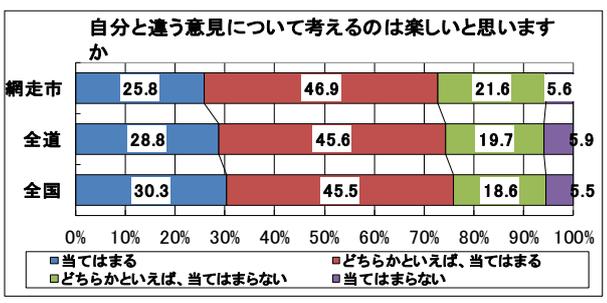
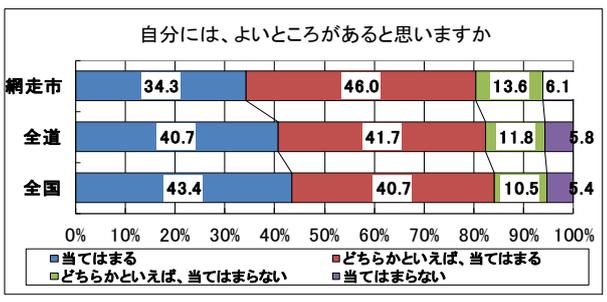
学校質問紙【児童に対して、家庭学習について、児童が自分から学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか】

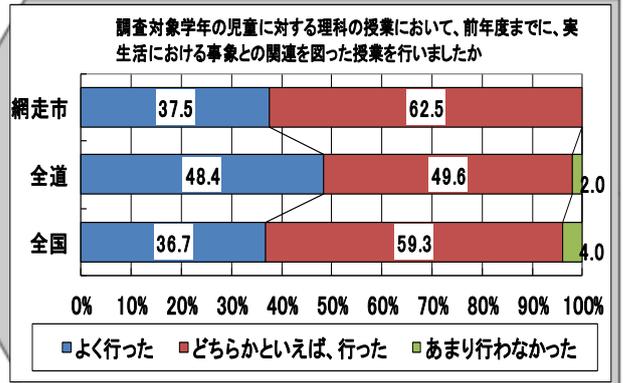
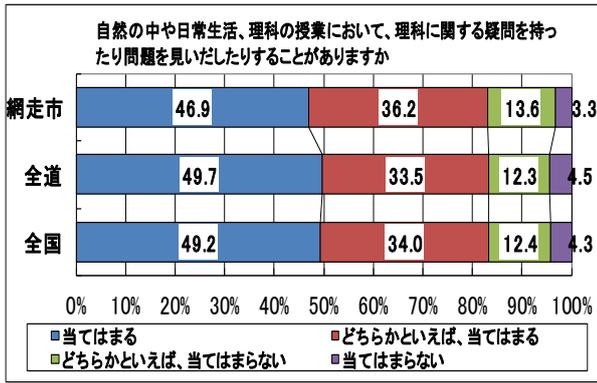
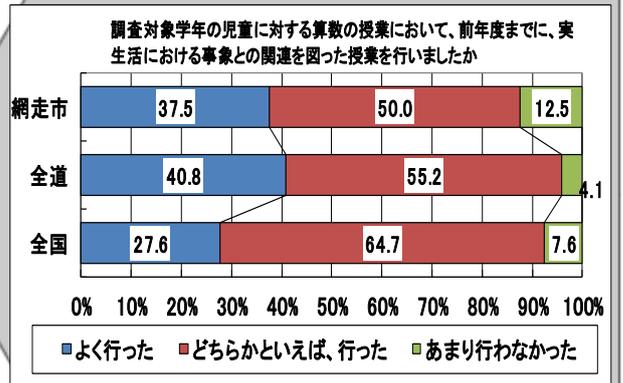
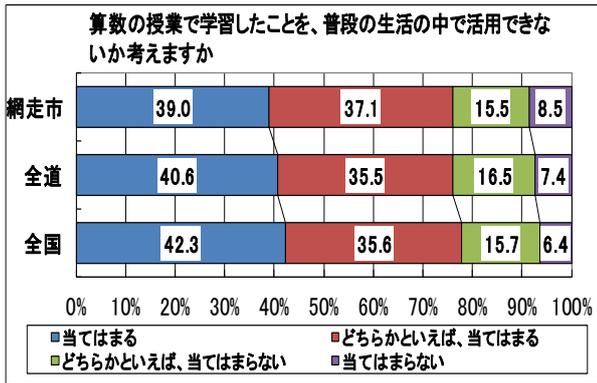
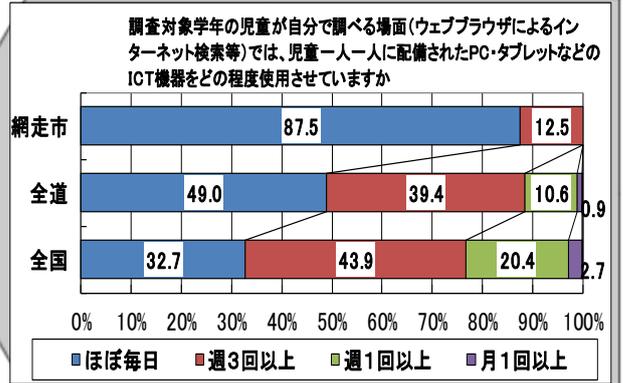
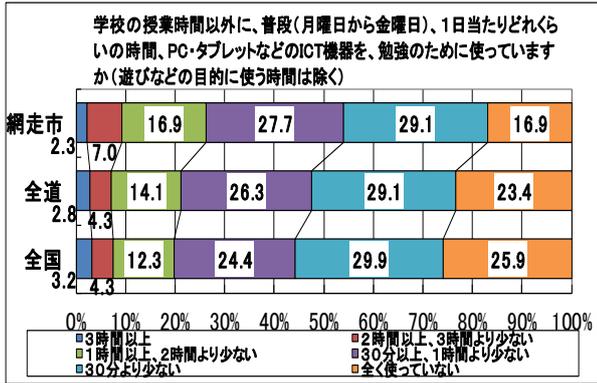
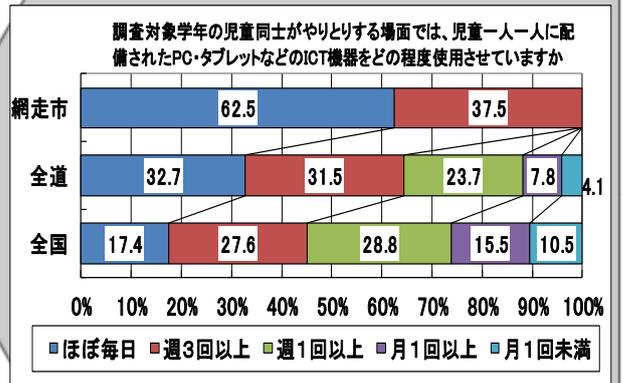
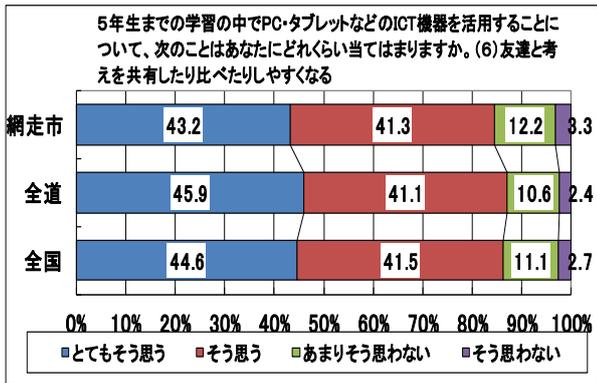
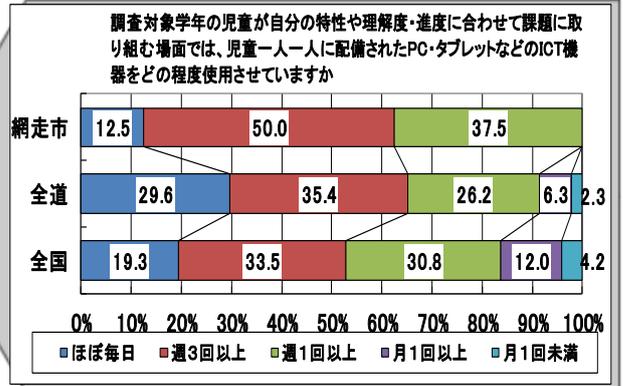
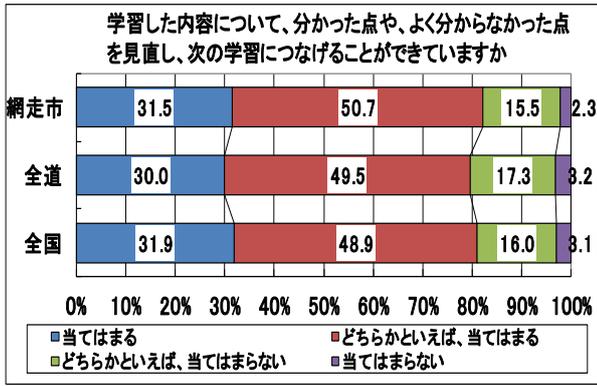


小学校

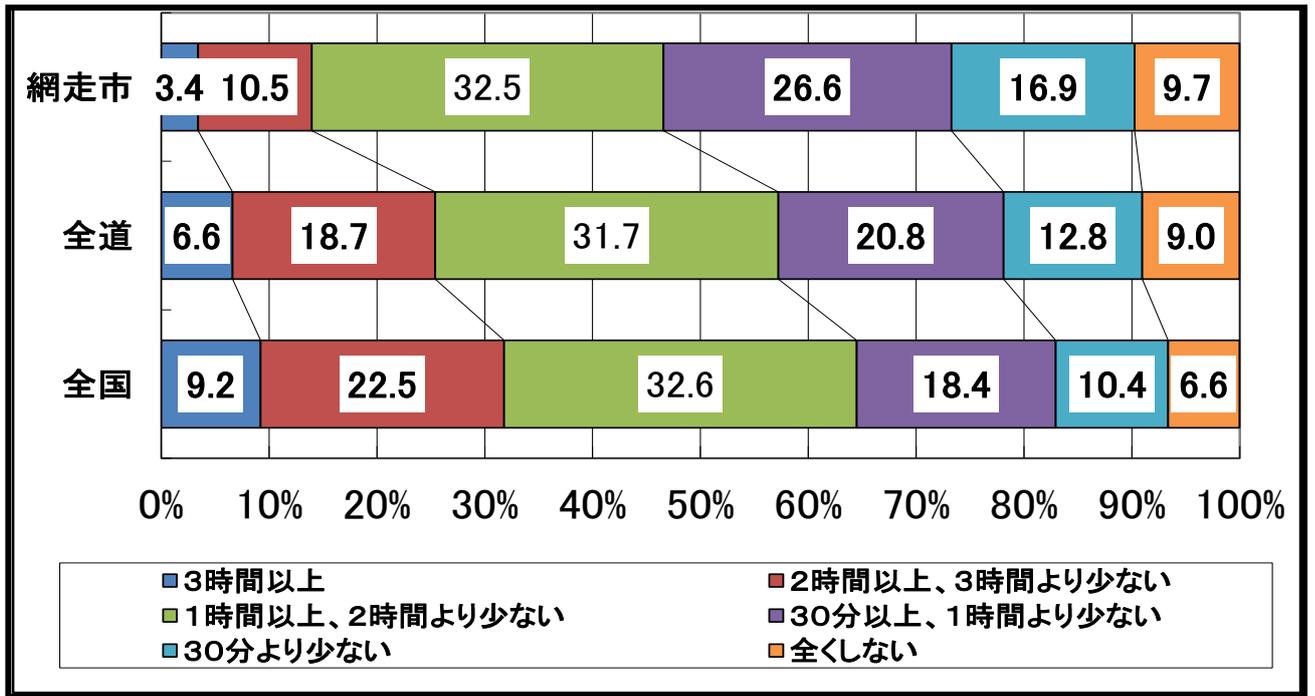
児童質問紙

学校質問紙

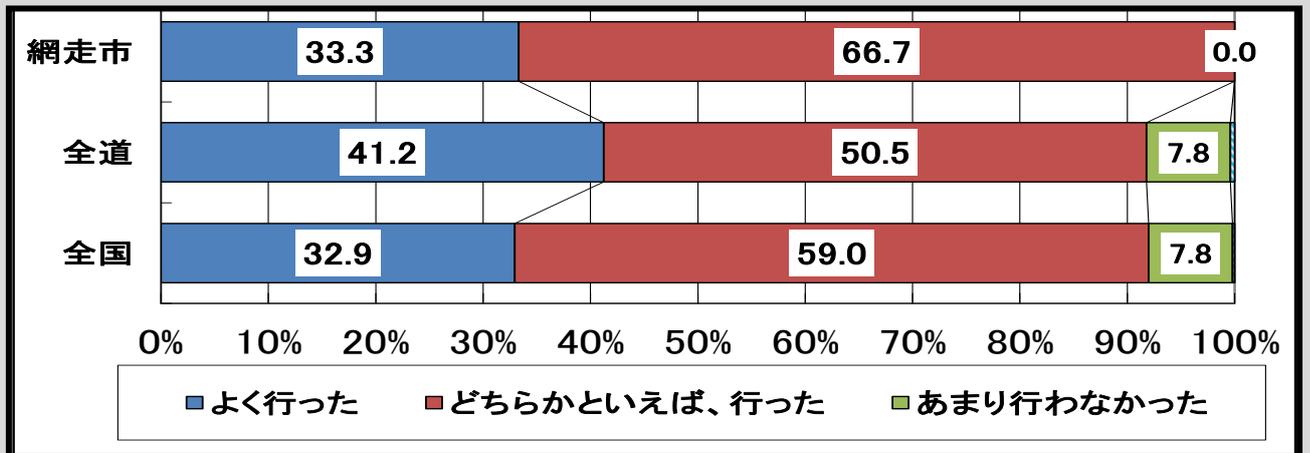




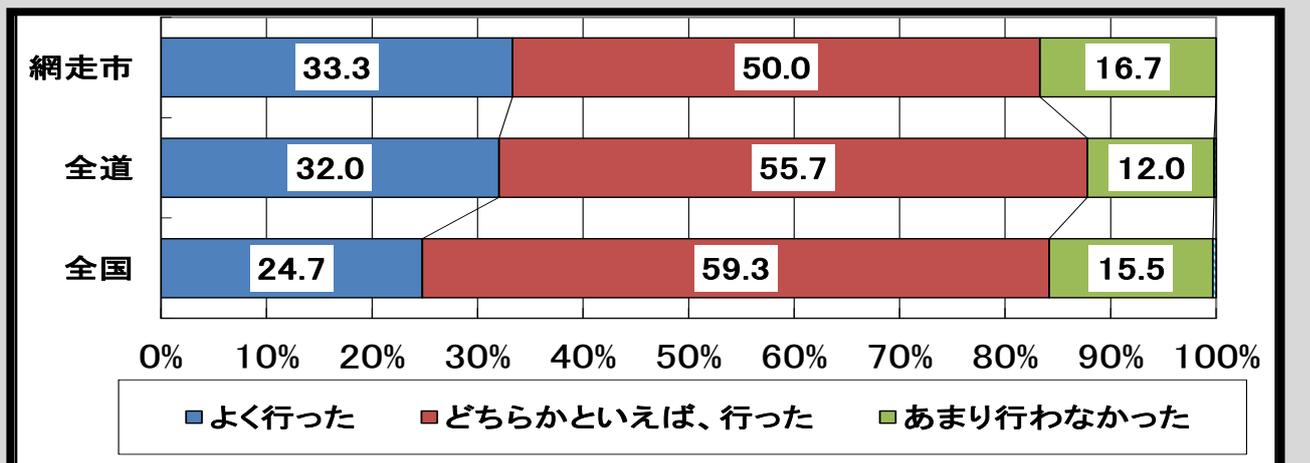
中学校生徒質問紙 【中学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか】



学校質問紙 【生徒に対して、家庭学習の取組として、学校では家庭での学習方法等の具体例を挙げながら教えましたか】



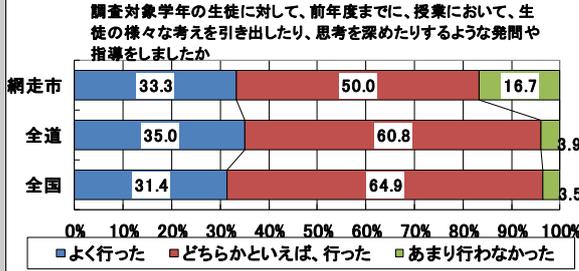
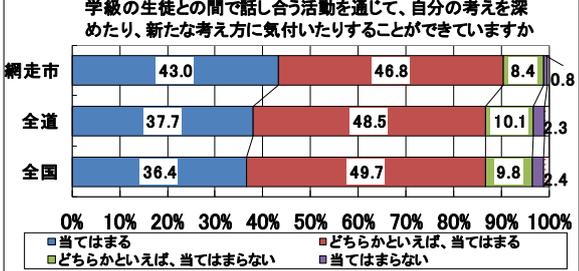
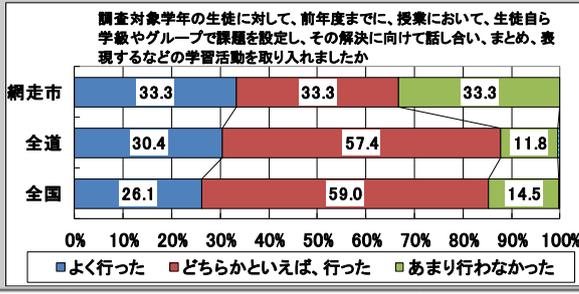
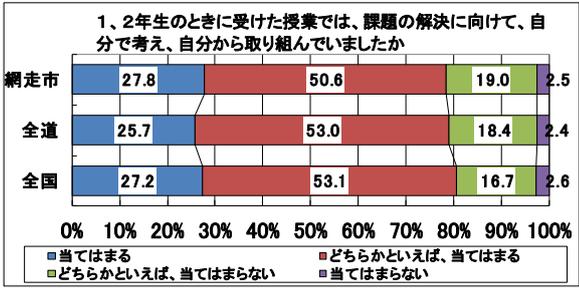
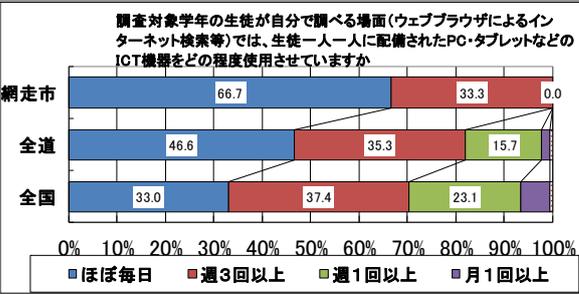
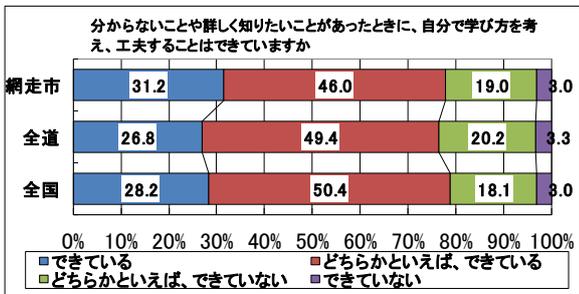
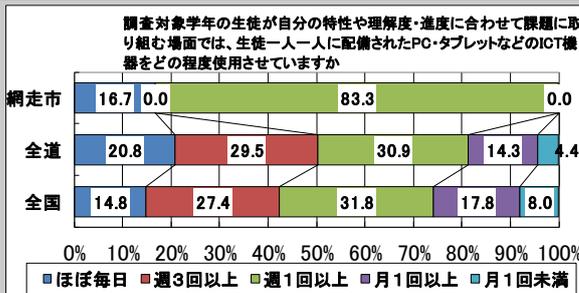
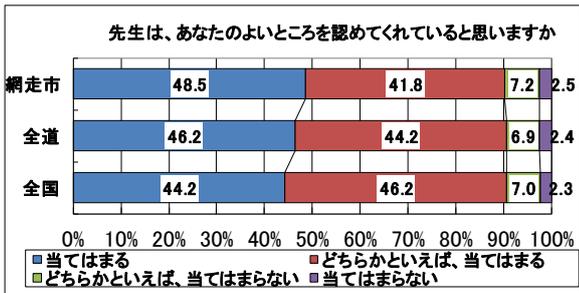
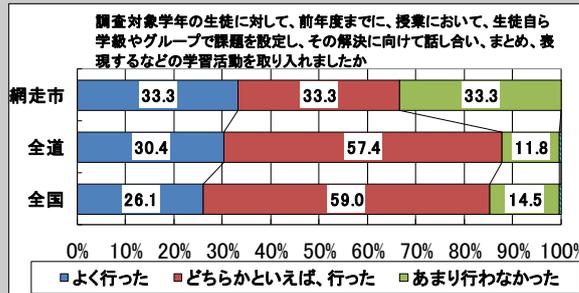
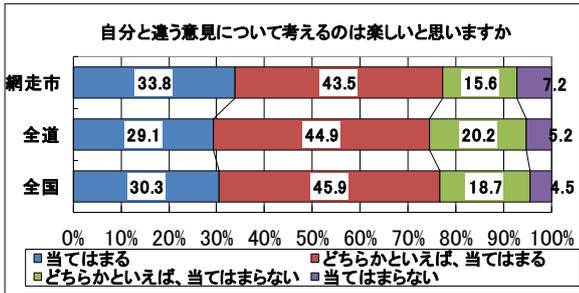
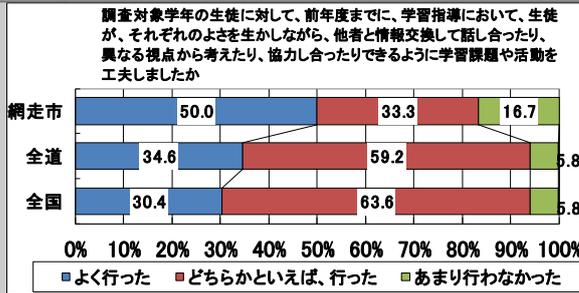
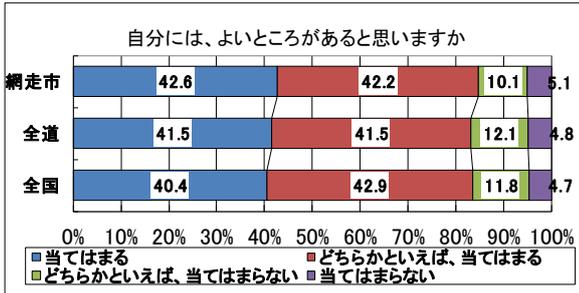
学校質問紙 【生徒に対して、家庭学習について、生徒が自分から学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか】

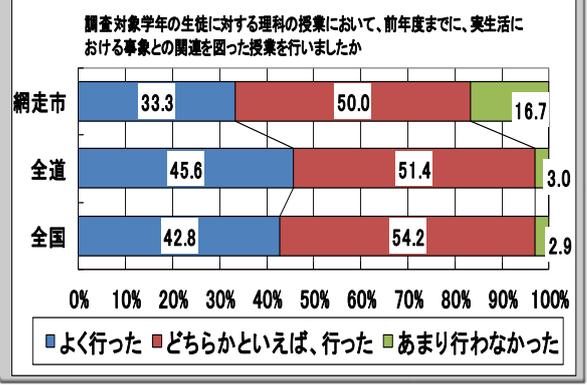
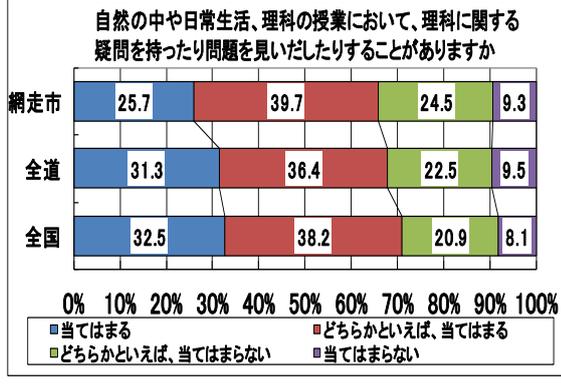
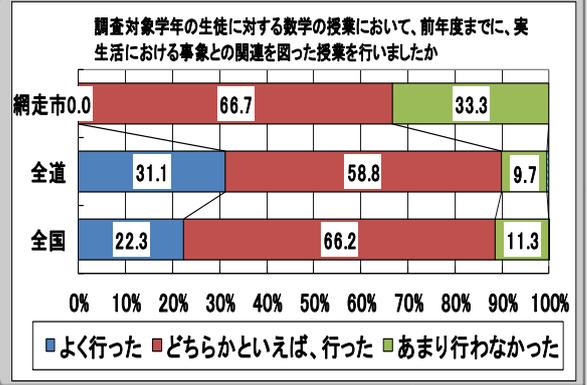
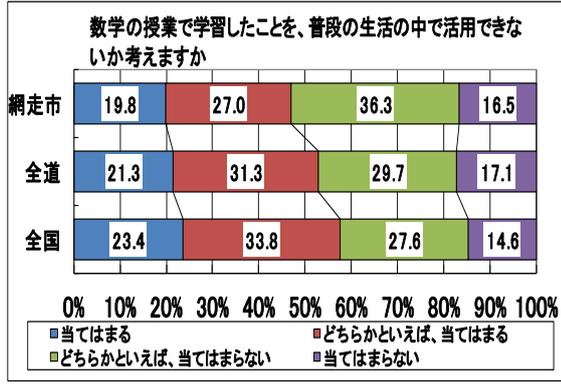
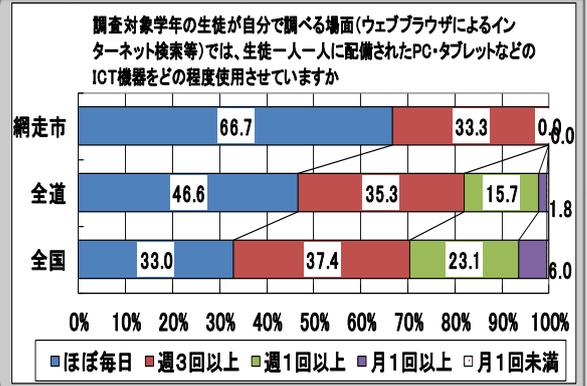
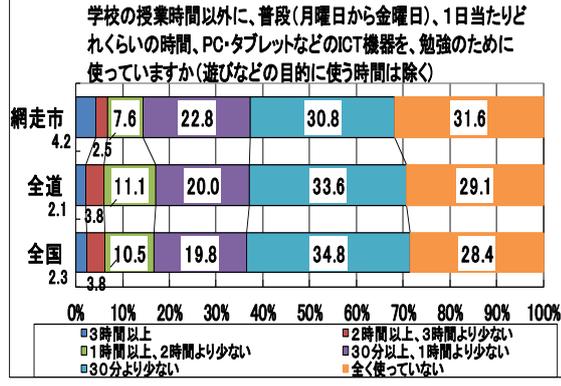
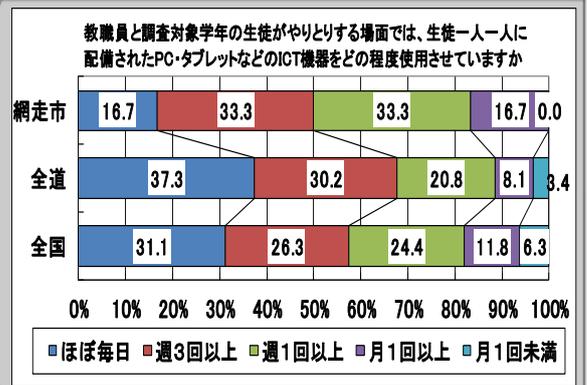
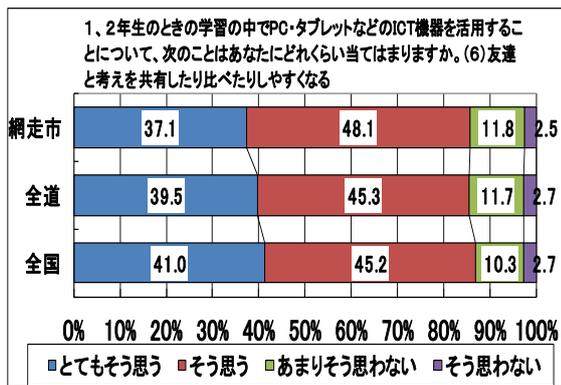
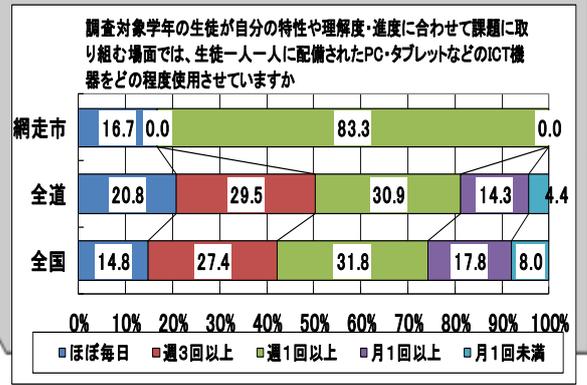
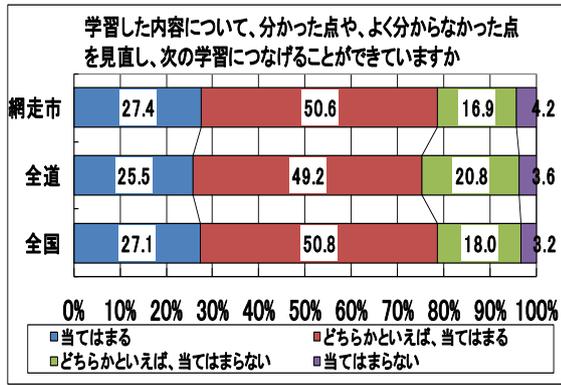


中学校

生徒質問紙

学校質問紙

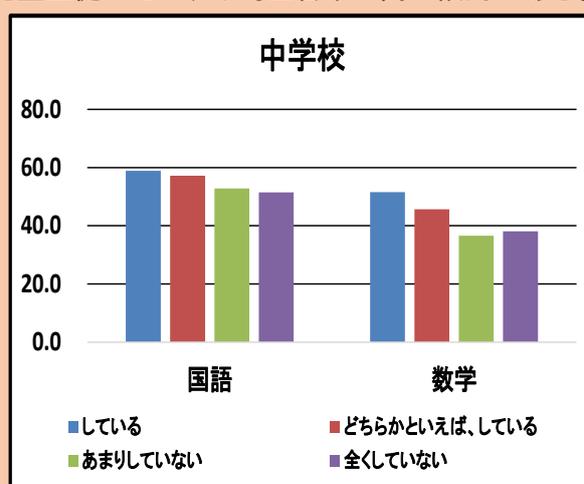
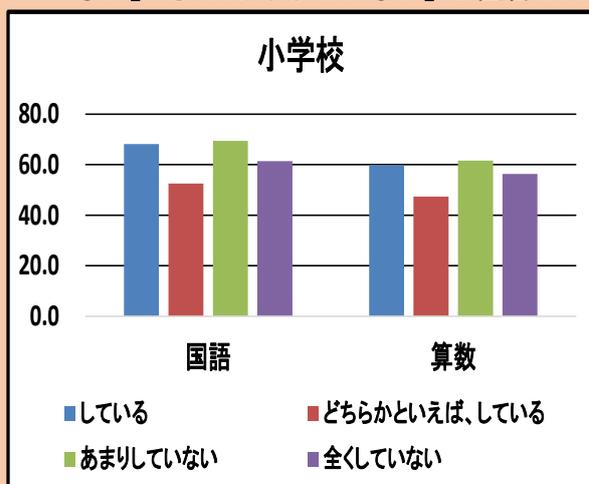




5. 質問紙調査と平均正答率の相関

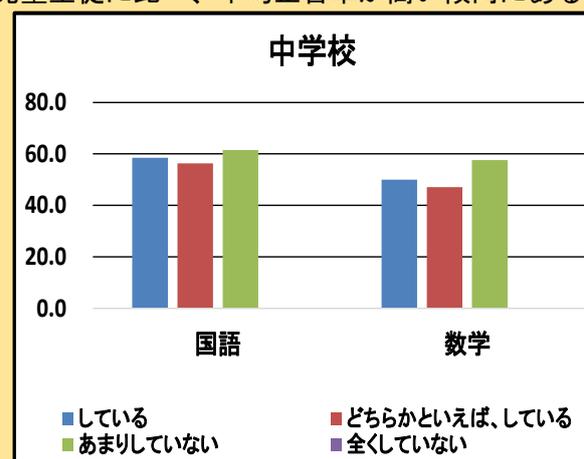
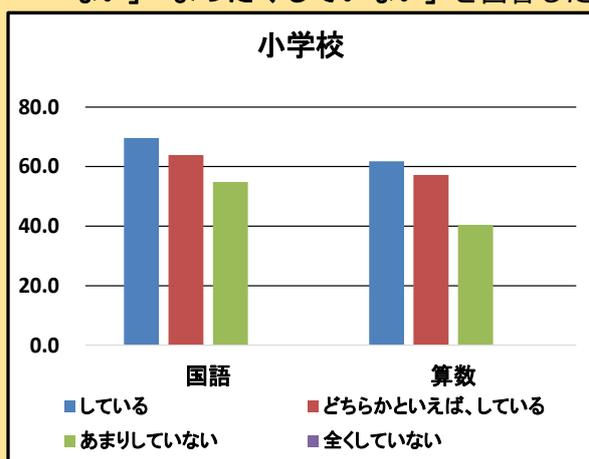
(1) 「朝食を毎日食べている」と正答率の相関

「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の方が「あまりしていない」「まったくしていない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



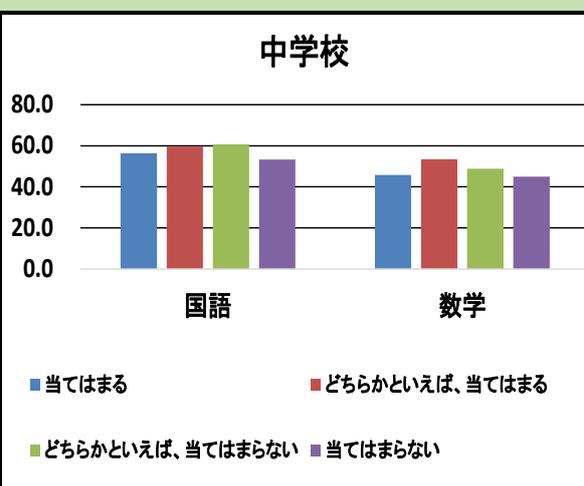
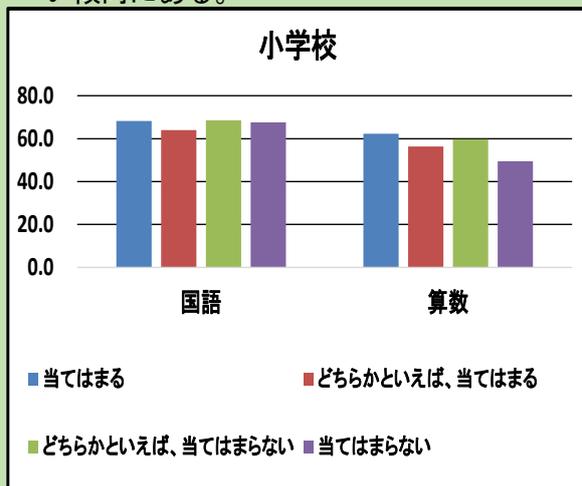
(2) 「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」と正答率の相関

「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の方が「あまりしていない」「まったくしていない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



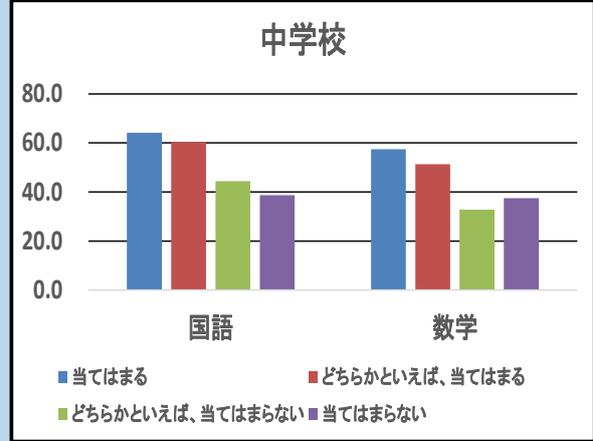
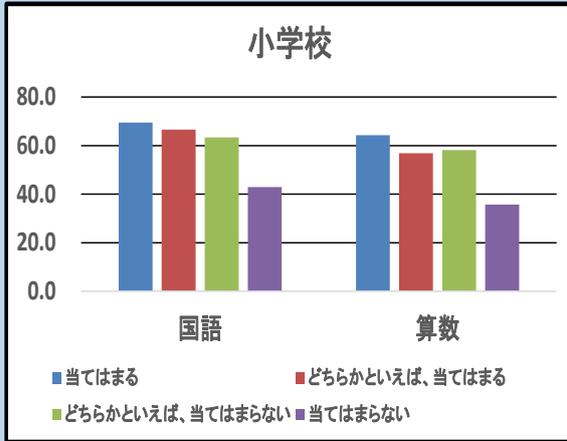
(3) 「自分にはよいところがある」と正答率の相関

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒は、「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



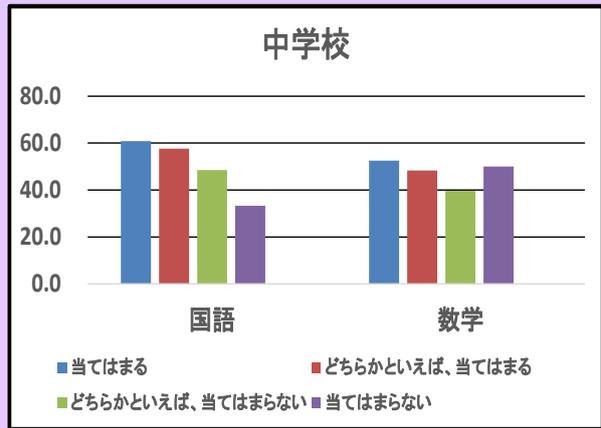
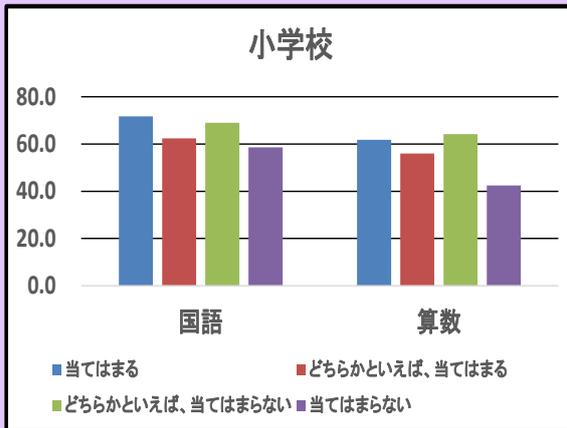
(4) 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と正答率の相関

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒は、「どちらかといえばあてはまらない」「当てはまらない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



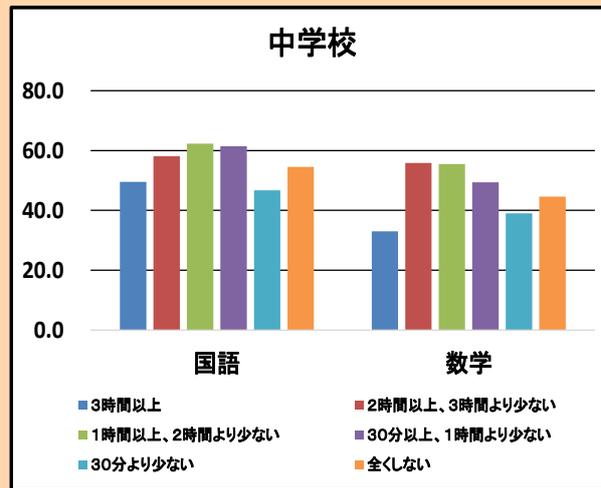
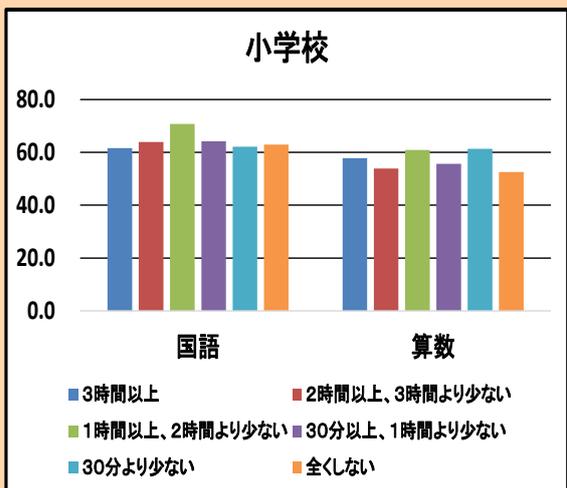
(5) 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」と正答率の相関

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒は、「どちらかといえばあてはまらない」「当てはまらない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



(6) 「学校の授業時間以外に、普段、日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」と正答率の相関

「1時間以上勉強する」と回答した児童生徒は、「1時間未満勉強する」と回答した児童生徒児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



6. 調査結果における課題と改善のポイント

(1) 学校での組織的な取組〔▲改善を要する点 ◆改善のポイント〕

【学習状況調査の結果から】

▲小・中学校ともに正答数が少ない児童生徒の割合が、全道・全国より高い。また、算数・数学において、正答数0～4問の割合が高い。

▲正答率が低い問題は、無解答率が全国に比べ高い。

▲経年比較で見ると、記述式で解答する問題の正答率が低い傾向にある。また、記述式は無解答率が高い。

▲経年比較で見ると、国語に比べ、算数・数学の正答率が全国に比べ低い傾向にある。

▲算数・数学が「好き」、「大切」と考える児童生徒の割合が全国より低い。

▲「国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している」児童生徒の割合が全国より低い。

◆個々の学習の状況を把握し、少人数指導、習熟度別学習などにより、きめ細かな指導を行う。

◆長期休業中や放課後に補充学習を行ったり、朝学習の時間を設定したりするなど、学習内容の定着を図る。

◆個々の学習状況に応じて、発展的な問題にも積極的に取り組ませる。

◆授業の中に、学習のねらいを示しながら、「見通す」「振り返る」学習活動を確実に行う。

◆授業の中で、自分の考えを深めたり広げたりさせることを意図した話し合い活動を設定する。

◆授業の中で、目的に応じて、文章を繰り返して読んだり、足りない情報を補ったり加えたりしながら読むことについて指導する。

◆授業の中で、書くことの条件(時数・時間・条件)を設定するなど、多様な書く場面を設定する。

◆話し方、聞き方、読み方、書き方などの指導について、系統性のある取組を学校全体で実施する。

◆低学年から本に触れる機会が多く設定されるよう読書指導に関わる全体計画(カリキュラム)を作成する。

◆朝読書など、全校一斉読書の時間を設定することにより、読書の機会を設ける。

◆学校図書館の活用の仕方についての指導の充実を図る。

【児童生徒質問紙調査から】

▲「学校に行くのは楽しい」と思う児童生徒の割合が全国より低い。

◆授業や特別活動、学校行事において、「できた」という達成感や満足感、「わかった」という嬉しさや楽しさを味わわせる指導の工夫を図る。

【児童生徒質問紙調査から】

▲学校の授業時間以外に、普段1日当たり、1時間以上勉強する児童生徒の割合が全国より低い。

▲中学校では、「全くしない」と回答する割合が全国より高い。

◆家庭での学習方法等について具体例を挙げながら教えることで、主体的に家庭学習に取り組めるようにする。

◆生活リズムチェックシートを活用するなど、1日の学習時間を継続して記録し、意識化を図る

◆家庭学習の出し方について教職員で共通理解を図るとともに、家庭学習の方法等について具体的な例を挙げながら指導を行う。

(2) 家庭での取組

【児童生徒質問紙調査から】

- ▲学校の授業時間以外に、普段1日当たり、1時間以上勉強する児童生徒の割合を高めていく必要がある。
- ▲1日当たり、「全く勉強をしない」と回答する割合を0にする必要がある。
- ▲学校や家庭でのきまり（特にスマートフォンの使用）を守ろうとする児童生徒の割合を高めていく必要がある。
- ▲「自分にはよいところがある」と回答する児童生徒の割合を高めていく必要がある。
- ▲「学校に行くことは楽しい」と回答する児童生徒の割合を高めていく必要がある。

①子どもの生活リズムを整えましょう

- 生活リズムチェックシートを活用し、子どもが自ら生活を記録する習慣化を図りましょう。
- 起床時刻、就寝時刻が不規則にならないようにしましょう。朝ごはんをしっかり食べてみましょう。

②家庭でのルールや目安を決め、しっかり守るよう子どもと約束をしましょう。

- 家庭学習は、【小学校】学年×10分+10分、【中学校】学年×1時間+10分を目標に取り組みましょう。
- テレビ、動画の視聴時間、ゲームの時間を少なくしましょう。
- 家庭で読書をする時間を設けましょう。
- 携帯電話（スマートフォン）、SNS、メール、インターネットなどは、使用できる時間などのきまりを設けましょう。

③家の中に、勉強ができる環境をつくりましょう。

④学校での出来事について話を聞く時間を作りましょう。励ましやほめることを大切にしましょう。

⑤子どもが何かに挑戦した時には、結果ではなく、行動したことやプロセスをほめてあげましょう。

⑥地域の行事へ参加させたり、図書館、社会教育施設を積極的に活用させたり、網走のよさにふれる時間をつくりましょう。

◀ 全国より高い傾向を示した項目 ▶

■小学校■

- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- ・分からないことがあった時に、ICT機器を使ってすぐ調べることができる。
- ・人の役に立つ人間になりたい。
- ・先生は、あなたのよいところを認めてくれている。
- ・分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる。
- ・学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。

■中学校■

- ・自分には、よいところがある。
- ・人の役に立つ人間になりたい。
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しい。
- ・学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。
- ・学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。

(3) 網走市教育委員会における学力向上の方策

この方策は、これまで網走市教育委員会が取り組んできたものをさらに推進・拡充させていくものと、新たに取り組むものです。

1 教員の指導力を高めるために、研修の充実を図ります。

- (1) 北海道立教育研究所や網走地方教育研修センター等の受講促進、先進地視察研修、公開研究会への参加、オホーツク管内教育研究団体への加入の促進を図ります。
- (2) 市内の学校で公開研究会を実施するとともに、網走市学校教育研究実践事業により公開研究会の開催を支援します。
- (3) 教職員の授業力向上のため、北海道教育委員会の専門的教育職員による学校教育指導を複数回要請し、授業改善や研究協議の充実を図ります。
- (4) 「網走市学力向上フォーラム」の開催や学力向上等の先進地域への視察研修など、網走市学力向上推進委員会の活動を支援するとともに、網走市教育委員会主催の研修会を開催し、教職員の指導力向上を図ります。
- (5) 読書指導や家庭学習習慣の定着に成果を上げている学校の取組を網走市学力向上推進委員会の中で共有し、各学校における具体的な取組の改善を図ります。

2 子どもの学びを支える教育環境の整備を図ります。

- (1) 学習内容をより分かりやすく伝えるためのICT機器（電子黒板、1人1台端末、デジタル教科書等）を整備するとともに、ICT機器の活用に関わる研修会を開催します。
- (2) 学校図書館司書の配置や学校図書の本数の整備など、読書環境の改善や、学校図書館機能の充実を図ります。
- (3) 海外からの英語指導助手（ALT）を複数配置し、小学校段階からの英語教育、国際理解教育の充実を図ります。

3 子どもたちに自ら学ぶ意欲を育み、確かな学力の定着を図ります。

- (1) 学習内容の定着を図るため、長期休業中や放課後の補充学習の充実、少人数指導や習熟度別学習、学習支援員の配置などによる、きめ細かな学習を推進します。
- (2) 子どもたち一人一人の理解を深めるため、学力状況を把握する標準学力検査や、学校での適応感を把握する検査の活用を促進します。
- (3) 学び方に関する全校共通指導事項の取組を推進し、学習規律の定着を図ります。
- (4) 家庭での学習習慣確立のために、学校・家庭・地域が連携し、家庭学習の習慣化やテレビ・ゲームの時間の見直しなど、「生活リズムチェックシート」の積極的な活用を図ります。
- (5) 小・中学校において、子どもたちが「15歳で育つ姿」共有しながら、9年間で身に付ける力を認識しながら、中学校校区を中心とした小中連携を推進します。
- (6) 東京農業大学との連携による、「長期休業中の学習サポート」「学習サポート事業（あばしり寺子屋）」を推進します。

4 健やかな学びを支えるために、体力向上の取組を推進します。

- (1) 心身ともに健康な子どもを育成するために、保護者、地域とともに、「早寝・早起き・朝ごはん」など望ましい生活習慣の定着、運動に慣れ親しむ機会を作るなど体力向上の取組を推進します。
- (2) スポーツ合宿団体によるタグラグビー教室など、スポーツ教室を積極的に開催します。また、教育長杯タグラグビー大会や、オホーツク網走マラソンなどの各種スポーツ大会への参加促進を図ります。
- (3) 1時間の授業の中でできるだけ運動する時間を確保したり、互いに教え合う活動を取り入れたりするなど、楽しく達成感が味わえる体育の授業の充実を図ります。
- (4) 日本体育大学との連携による、「子ども体力づくりサポート」や「体育授業改善研修会」を実施します。

5 特別支援教育の充実を図ります。

- (1) 特別支援教育支援員などの人的支援の充実や関係機関との連携を図ります。
- (2) 教職員や保護者の特別支援に対する理解を深めるため、研修会の実施、教育相談体制の充実を図ります。

6 思いやりを大切に、豊かな心や地域を愛する心を育みます。

- (1) 学校における地域・保護者への積極的な道徳の時間の公開や教育講演会の開催など、豊かな心を育成する教育の充実を図ります。
- (2) 「網走市子ども会議」を開催し、子どもたちが学校生活における人間関係づくりのために”何を””どのようにすればよいのか”について考え、誰もが楽しいと思える学校づくりに自分たちが主体的に取り組もうとする活動の充実を図ります。
- (3) 地域に対する愛着や関心を高めるために、地域を素材とした総合的な学習の時間、ふるさと教育、食育などの充実を図ります。
- (4) 学校での朝読書や家読（うちどく）の充実、読み聞かせなどによる良書との出会い、市立図書館による「読書ノート」の積極的な活用により読書の充実を図ります。

7 地域、保護者との連携を図り、地域とともにある学校づくりを推進します。

- (1) 学校と家庭、地域住民等が「地域でどのような子どもたちを育てるのか」、「何を実現していくのか」という目標やビジョン共有しながら、特色ある学校づくりを進めていくために、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を推進します。
- (2) 地域、保護者とともにある学校を目指し、「オープンスクール」の実施や「網走市学校支援地域本部事業」によるボランティアの活用など、地域、保護者との連携を図ります。
- (3) 小・中学生と地域の高校、大学との交流を推進し、子どもたちの新たな興味や関心を引き出す様々な体験学習等の充実を図ります。
- (4) 心身ともに健やかな子どもを育成するために、網走市PTA連合会と連携し、教育講演会、研修会を開催します。
- (5) ネットトラブルの未然防止を図るために学習会を開催したり、使用のきまりを作成したりするなど、学校と保護者が連携した取組を推進します。